# 肝炎検査受検状況実態把握事業の結果の概要と考えられる方向性について（案）

# 本事業の概要

肝炎は、国内最大級の感染症といわれており、国・自治体等により、肝炎ウイルス検査の受検促進をはじめ、様々な対策が実施されているが、実際の検査受検状況等の把握は難しい状況にある。

このため、本事業は、現在の肝炎ウイルス検査の受検状況を調査するとともに、検査の受検を促進する上での現在の課題について、明らかにする目的で実施した。

| 種類 | 調査期間 | 対象・方法 | 回収率 | 調査内容 |
|---|---|---|---|---|
| 国民調査 | 平成24年1月6日(金)～<br>平成24年1月30日(月) | 住民基本台帳より、地域・市町村の人口規模による層化二段抽出した20～79歳の日本人<br>＊郵送アンケート | 32.1%<br>(74,000件中<br>23,720件回収) | Ｂ型・Ｃ型肝炎についての認知度、受検状況等 |
| 保険者調査 | 平成23年12月16日(金)～<br>平成24年1月23日(月) | 組合健保、および共済組合<br>1,529団体＊郵送アンケート | 64.9%<br>(1,529件中<br>992件回収) | 健診でのＢ型・Ｃ型肝炎ウイルス検査実施状況等 |
| | | 全国健康保険協会<br>（船員保険を除く）＊データ集計 | － | |
| 自治体調査 | 平成23年12月13日(火)～<br>平成24年１月16日(月) | 都道府県および特別区・保健所設置市を除いた全ての市町村<br>＊郵送アンケート | 74.6%<br>(1,631件中<br>1,216件回収) | 健康増進法に基づく肝炎ウイルス検査、健診でのＢ型、Ｃ型肝炎受検状況等 |
| | | 都道府県全数<br>＊事業報告データを再集計 | － | |

# 肝炎ウイルス検査の受検割合について

肝炎ウイルス検査は、本人が自覚的に受検する場合と、大きな外科手術や妊娠・出産時などに必ずしも本人が自覚しないうちに受検する場合がある。

今回の調査では、両者を以下のような基準で集計した。

〇自己申告受検：「肝炎ウイルス検査を受けたことがある」かつ
「B型（C型）肝炎ウイルス検査を受けたことがある」と回答した者。

〇非認識受検：肝炎ウイルス検査を『受けたことがない』または『分からない』と回答しているが、大きな外科手術などの経験があり、検査を受けていることが予想される者。

※参考　非認識受検者の判定基準年次について

| 検査種別 | 医療行為 | 検査が導入された時期 | 非認識受検者として抽出する時期 |
|---|---|---|---|
| B型肝炎ウイルス検査（ＨＢｓ抗原検査） | 献血 | 1972年4月　献血に対する検査導入 | 1973年以降に経験 |
| | 大きな外科手術 | 1981年6月　保険適用 | 1982年以降に経験 |
| | 妊娠・出産 | 1985年6月　妊婦ＨＢｓ抗原検査に国庫補助開始 | 1986年以降に経験 |
| C型肝炎ウイルス検査（ＨＣＶ抗体検査） | 献血 | 1989年12月　献血に対する検査導入 | 1990年以降に経験 |
| | 大きな外科手術 | 1992年4月　保険適用 | 1993年以降に経験 |
| | 妊娠・出産 | 国庫補助なし 1992年4月　保険適用 | 1993年以降に経験 |

# 肝炎ウイルス検査の受検割合について

| | **受検割合** | うち自己申告受検者 | うち非認識受検者 |
|---|---|---|---|
| B型肝炎ウイルス検査 | **57.4%** | 17.6% | 39.8% |
| C型肝炎ウイルス検査 | **48.0%** | 17.6% | 30.4% |

※　肝炎ウイルス検査を受けたと回答した割合は26.2%であることから、肝炎ウイルス検査を受けたことは認識しているが、その種類を覚えていない者が8.6%存在する。
　このため、実際に肝炎ウイルス検査と考えられる割合は17.6%よりも高いと考えられる。
※　B型・C型肝炎ウイルス検査の両方を受けたと回答した者の割合は13.8%である。

※　本調査で得られた受検割合は、あくまでも肝炎ウイルス検査を受検したと回答した者の割合であり、客観的な受検率については、本調査も踏まえ、今後研究班で検討していく予定としている。

# 集計結果から明らかになった事実と課題等について

| 集計結果から明らかになった事実 | 課題と考えられる方向性（案） | |
|---|---|---|
| ・　自己申告受検者の「受検のきっかけ」で最も多いのが、「職場での定期健康診断や人間ドック」（38.2%）である。<br>・　未受検者の「受検しない理由」の上位2つが、「きっかけがなかった」（39.1%）「定期健康診断等のメニューにない」（37.3%）である。 | 事業主や保険者・自治体と連携しながら、検査を受けやすい体制について、検討を行う。 | |
| ・　未受検者の「受検に向けて期待する施策」の上位2番目が、「検査費用の低減」（36.8%）である。<br>・「保健所や一部医療機関での無料検査の実施」は、90%の住民が認知していない。 | 保健所や医療機関で無料検査を実施しており、必ずしも費用負担せずに受検する機会があることを伝え、自らの行動変容を促す。 | 効果的な情報提供の実施 |
| ・　未受検者の「受検に向けて期待する施策」の上位3番目が、「検査を受ける理由、効果の提示」（34.3%）である。<br>・　未受検者の「受検しない理由」の上位3番目が、「自分は感染していないと思う」（28.2%）である。 | 「肝炎」という病気についてほとんど知らないことが、検査の受検を妨げていると考えられるため、まずは、疾患について、正しく理解していただくよう周知する必要がある。 | |
| ・　未受検者の「受検に向けて期待する施策」の上位5番目が、「検査の時間や場所の情報提供」（32.3%）である。特に、「今後検査をぜひ受けてみたい」とした未受検者の「受検に向けて期待する施策」では上位2番目（49.3%）である。<br>・　未受検者の「受検しない理由」の上位4番目が、「検査機関や場所が分からない」（22.7%）である。 | 検査を受検したいという意思はあるものの、実施場所がわからないことが、受検の妨げとなっている。疾患について、正しい知識を知らせると同時に、検査できる場所や時間帯についての情報を提供する必要がある。 | |

# 集計結果から明らかになった事実と課題等について

| 集計結果から明らかになった事実 | 課題と考えられる方向性（案） |
| --- | --- |
| ・　自己申告受検者の「受検のきっかけ」で2番目に多いのが、「手術前や妊娠・出産時などの際の検査」（29.2%）である。<br>・　手術や出産時に検査を受けていると考えられるが、検査を受けたことを認識していない（非認識受検者）が多く存在する。 | スクリーニング目的で行われる検査について、陽性の場合は適切な医療へつなげ、陰性の場合は、結果を本人がきちんと認識できるよう、医療機関との連携について検討を行う。 |
| ・２回以上検査を受けている回答者のうち、再検査の必要性が少ない理由※注で受検している者が約４割存在する。<br><br>※注　毎年定期的に受検するものと思っていたため（24.2%）<br>特に理由はない（なんとなく）（9.9%）<br>前回の検査以降、特に感染機会はなかったが不安なため（9.5%） | 感染する危険性のある行為がない場合は、短い期間で再検査を行う必要はないことを周知する。 |